



外国ルーツ青少年当事者調査から見える 外国ルーツ青少年の今

(公財) 日本国際交流センター
李 惠珍 シニア・プログラム・オフィサー
大関 絢子 研究員

■ 調查概要

調査実施概要

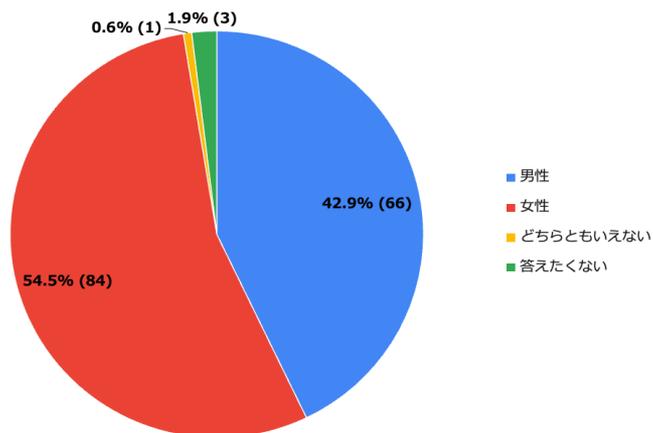
- **調査目的** : 日本に暮らす外国ルーツ青少年が、どのようなことで悩んでいるのか、将来や仕事のことをどう考えているかなどの把握
- **調査対象** : 日本に暮らす外国にルーツを持つ中学生及び高校生
(有効回答数 : 外国ルーツ中学生156件、外国ルーツ高校生165件)
- **調査方法** : ①外国ルーツ青少年の教育支援、居場所づくりなどに取り組む市民公益活動団体、
②地方自治体の多文化共生・日本語教育政策関連担当課、教育委員会、
③ブラジル学校や朝鮮学校などの外国人学校、
に対して郵送またはメールにより調査票を送付し、外国ルーツ中学生及び高校生からウェブアンケートフォームまたは調査票にて回答を収集。
- **調査期間** : 2022年9月13日～10月30日
- **調査項目** : ①基本情報Ⅰ (性別、年齢、地域、在留資格、在学している学校、日本の滞在期間など)
②基本情報Ⅱ (家族関係、家族との使用言語、保護者の日本語レベルなど)
③学校生活や家族、友達関係 (生活の満足度、学校生活・家庭・自身での大変なことなど)
④学校での活動やサポート (部活など参加有無、放課後の過ごし方、サポートの利用有無など)
⑤進路 (進路希望、進路にかかわる悩み、相談相手など)
⑥将来の仕事 (就きたい仕事の有無、希望する職業、将来のイメージなど)

回答者の属性：中学生

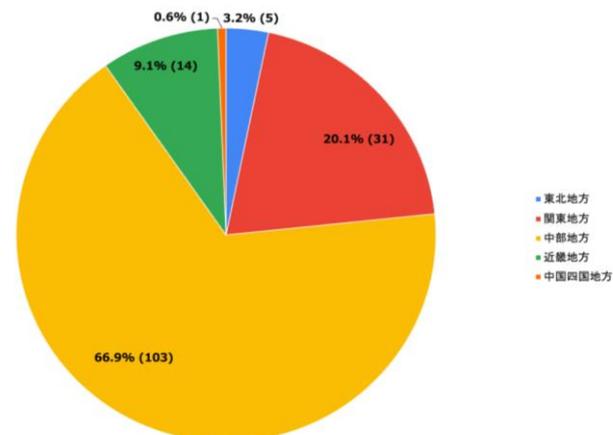
(単数回答)

- ・居住地：67%が中部地方に居住
- ・出生国：58%が日本以外、内およそ57%がブラジル出身

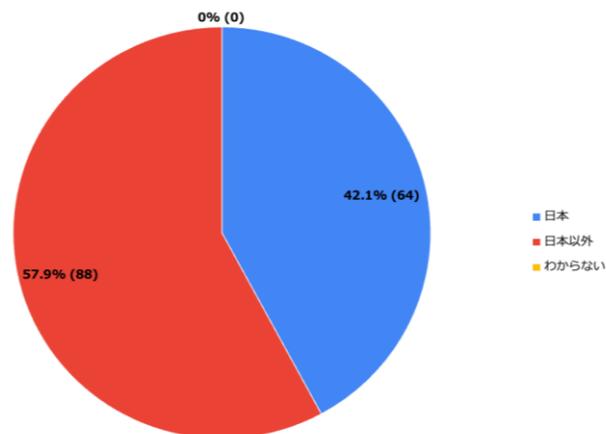
<回答者の性別> (n=156)



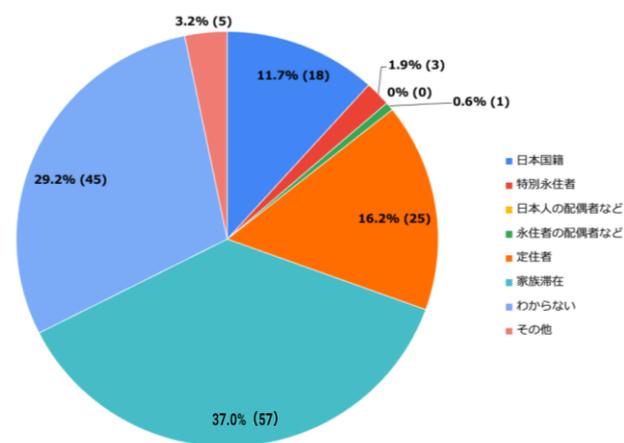
<回答者の居住地> (n=156)



<回答者の出生国> (n=156)



<回答者の在留資格> (n=156)

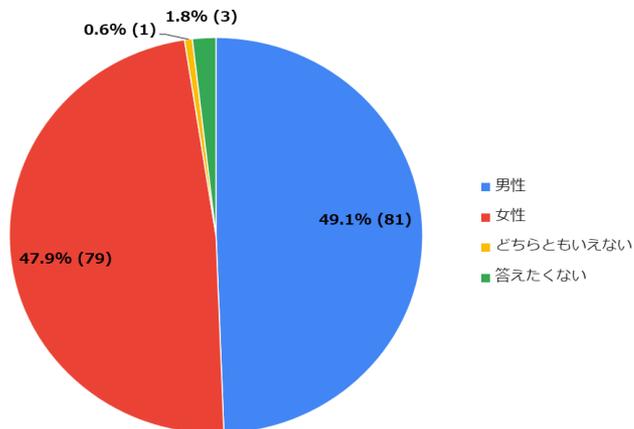


回答者の属性：高校生

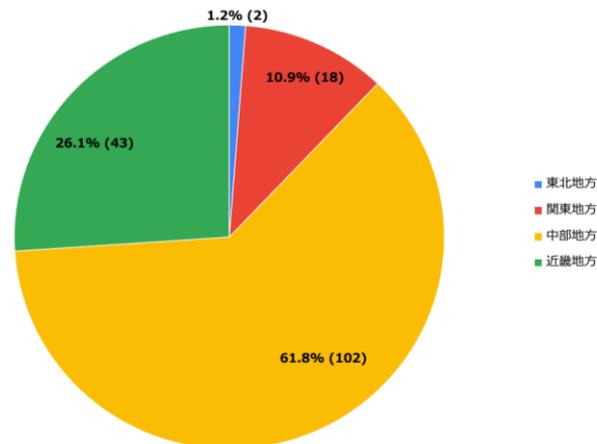
(単数回答)

- 居住地：62%が中部地方、26%が近畿地方に居住
- 出生国：61%が日本以外、内およそ36.5%がブラジル出身、24%がフィリピン出身

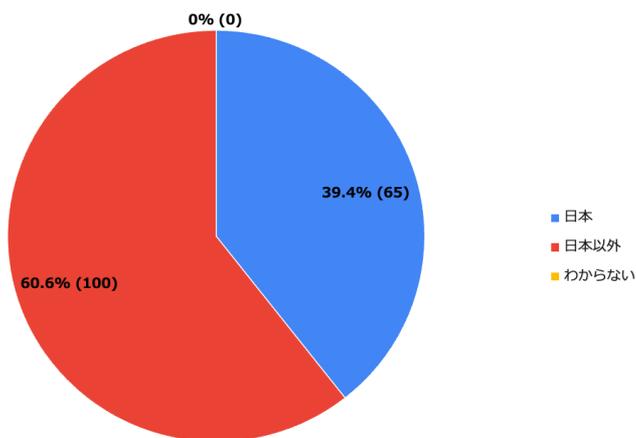
<回答者の性別> (n=164)



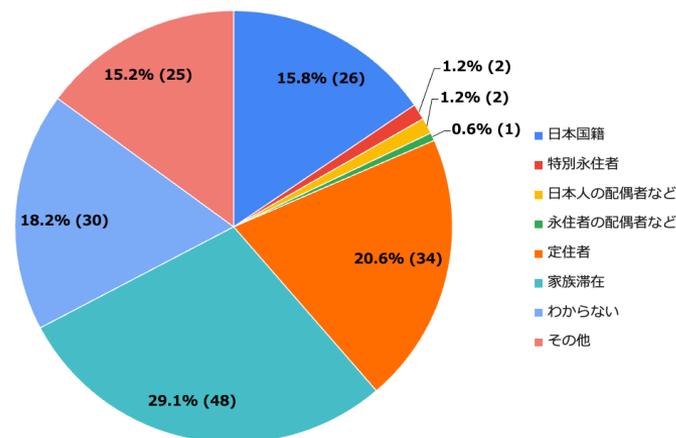
<回答者の居住地> (n=165)



<回答者の出生国> (n=165)



<回答者の在留資格> (n=165)



ご紹介する調査結果について

外国ルーツ青少年は

- ▶ 学校生活と自分自身についてどのような悩み・不安を抱えているのか
- ▶ 現在どのようなサポートを使っている、
今後どのようなサポートを使いたいのか
- ▶ 進学・進路をどう考えているのか
- ▶ つきたい仕事や、将来についてどのように考えているのか

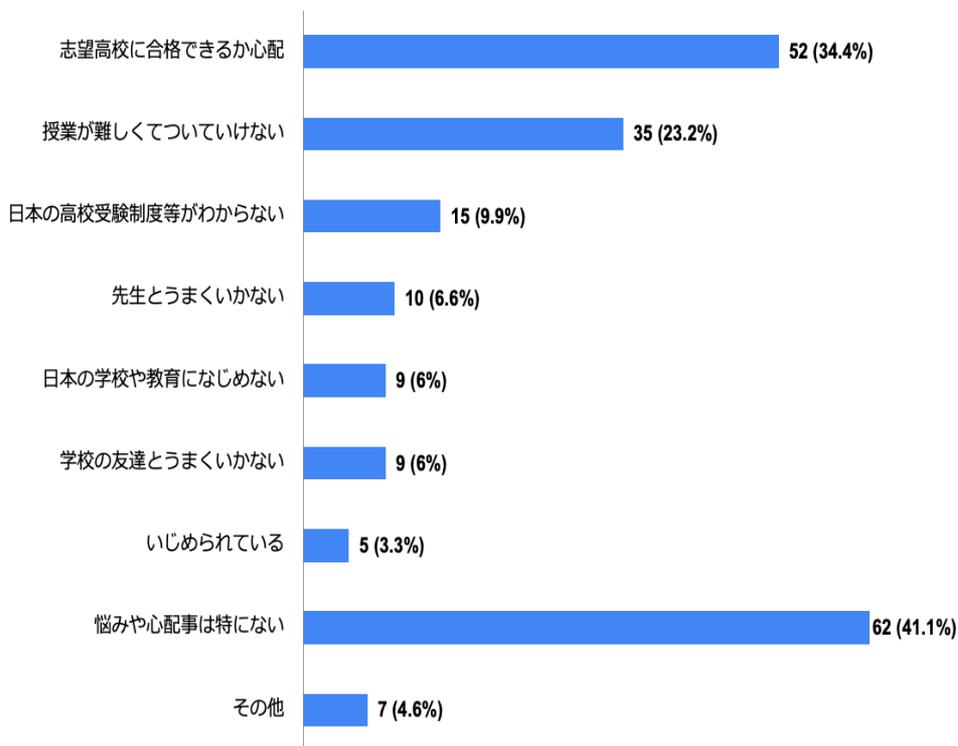
■ 調査結果 - 1

学校生活、自分について

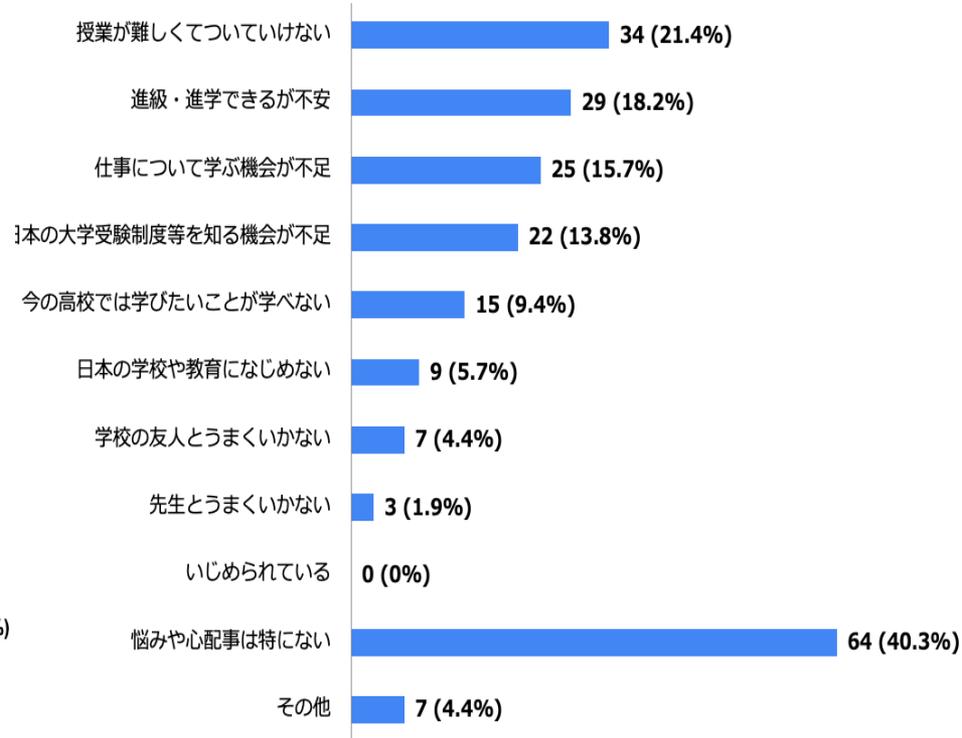
学校生活で大変なことは何か① (複数回答)

- ・中学生：進学（34.4%）を筆頭に学業に関する悩みが上位を占める
学校生活において「なやみや心配事はとくにない」との回答も、全体の4割強を占めている
- ・高校生：授業についていけないこと（21.4%）の割合が最も高く学業に対する悩みが大きい
進学・キャリア選択に関する悩みも確認でき、支援の必要性がうかがえる
学校生活において「なやみや心配事はとくにない」との回答も、全体の4割強を占めている

〈中学生〉 (n=151)



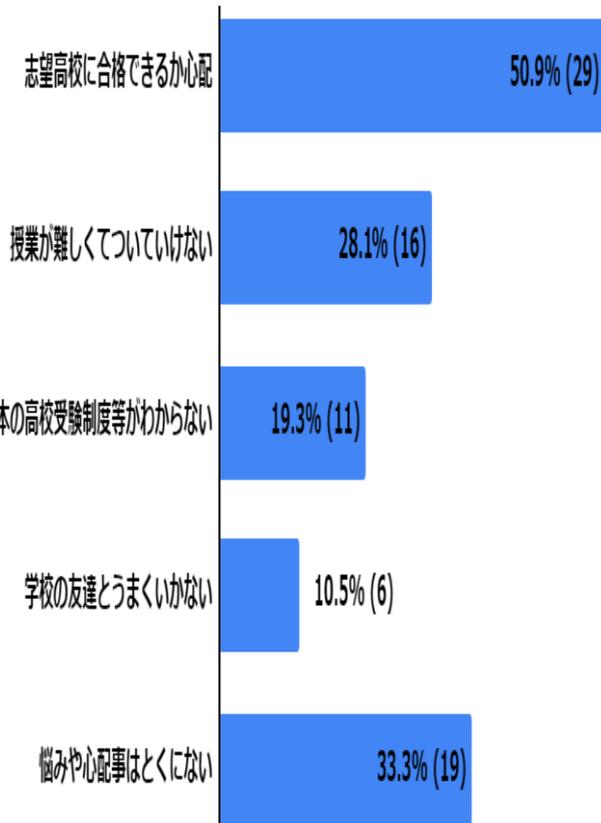
〈高校生〉 (n=159)



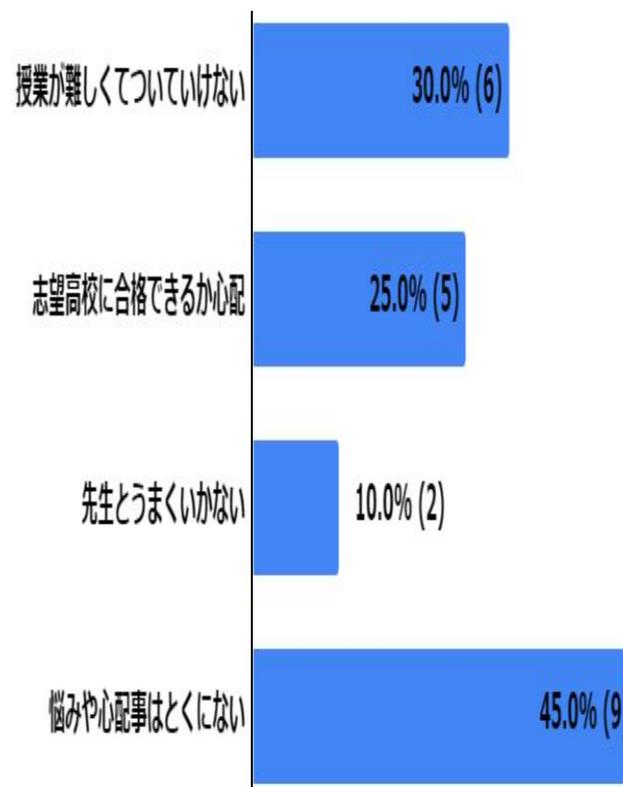
学校生活で大変なことは何か②：中学生 [学校種別] (複数回答)

- いずれの学校でも高校入試と授業の理解が悩みの多くを占めている
- 公立中学校では、「なやみや心配事はとくにない」が33.3%を占め、三分の二の回答者が悩みを持っている

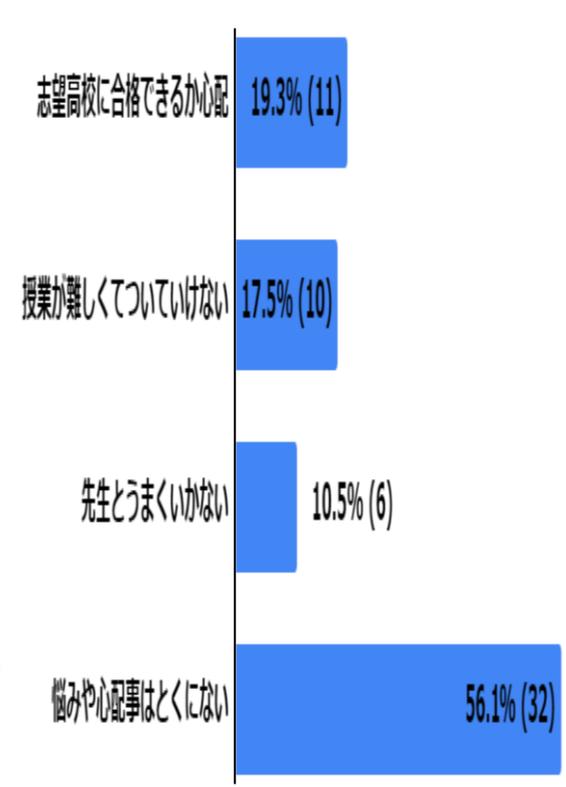
〈公立の中学校〉 (n=57)



〈私立の中学校〉 (n=20)



〈外国人学校〉 (n=57)



学校生活で大変なことは何か③：高校生 [学校種別] (複数回答)

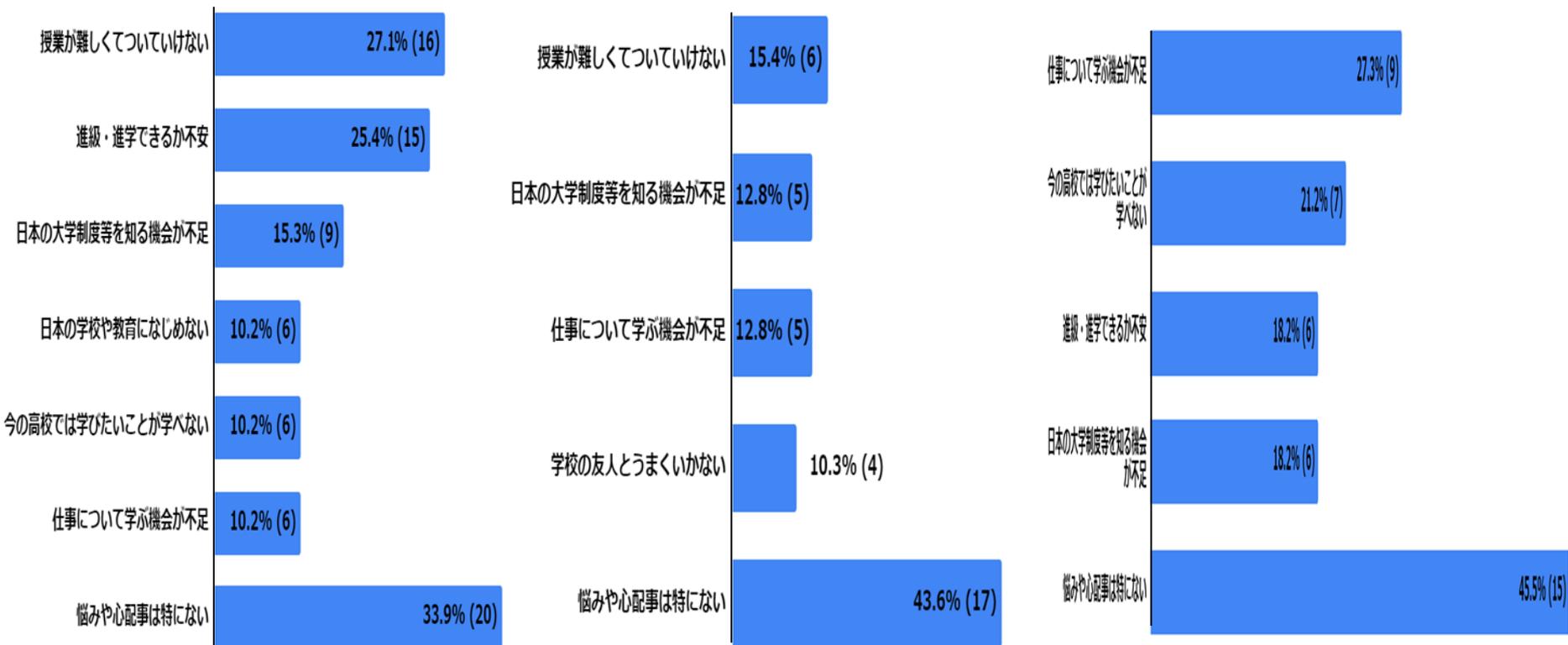
・公立の高校では、授業の難しさや進級・進学といった学業の悩みが四分の一強に回答されている一方、外国人学校では、四分の一強が将来の仕事やキャリアについての情報不足を悩みとしている

・いずれの学校でも、大学受験制度や大学の授業料などの進学に関する情報不足という悩みがある（外国人学校：18.2%、公立の高校：15.3%、私立の高校：12.8%）

〈公立の高校〉 (n=59)

〈私立の高校〉 (n=39)

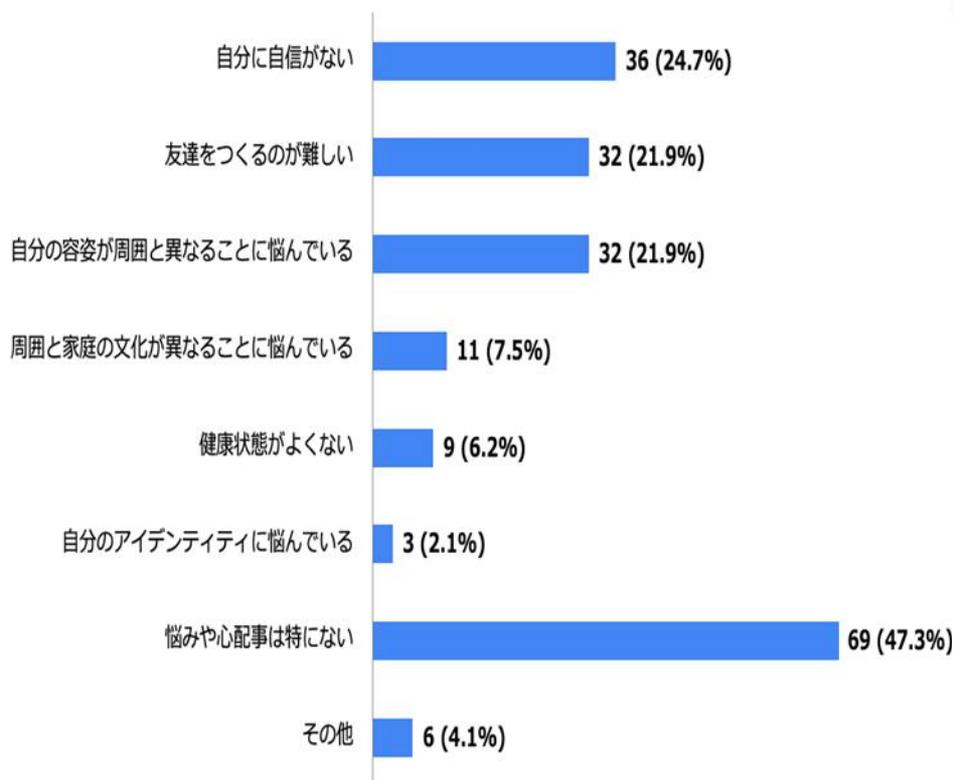
〈外国人学校〉 (n=33)



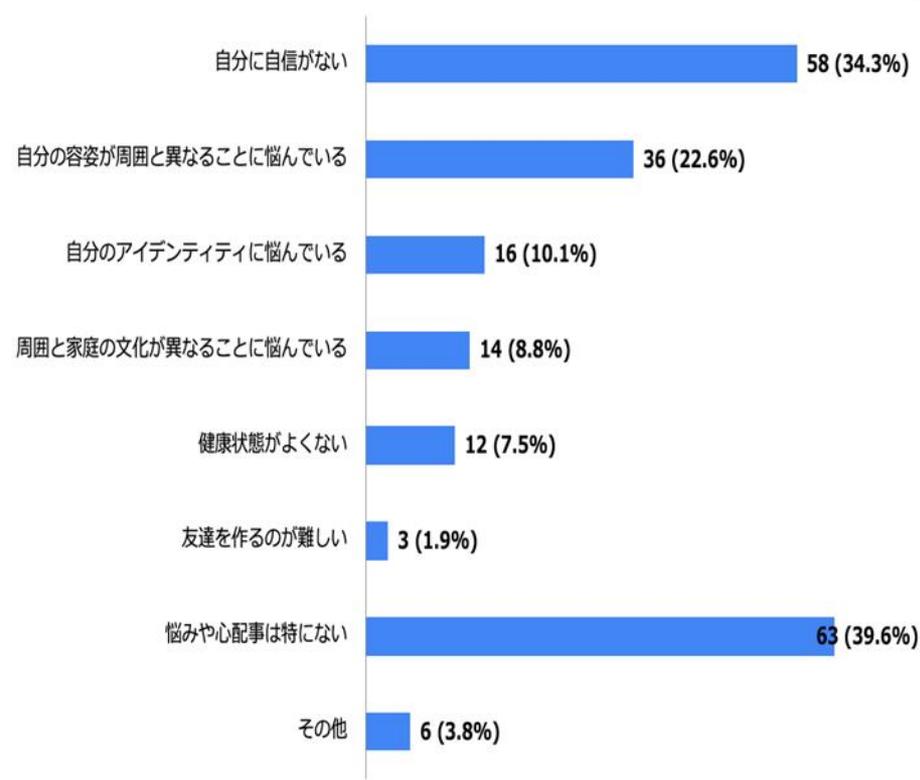
あなた自身について大変なことは何か① (複数回答)

- ・中学生：「自分に自信がない」(24.7%)の割合が最も高く、「友達をつくるのが難しい」(21.9%)、「自分のみためが、まわりとちがうことになやんでいる」(21.9%)が続く
- ・高校生：「自分に自信がない」(34.3%)の割合が最も高く、「自分の容姿、みためが、まわりとちがうことに悩んでいる」(22.6%)、「自分のアイデンティティ〈自分が誰なのか〉に悩んでいる」(10.1%)が続く

〈中学生〉 (n=146)



〈高校生〉 (n=159)

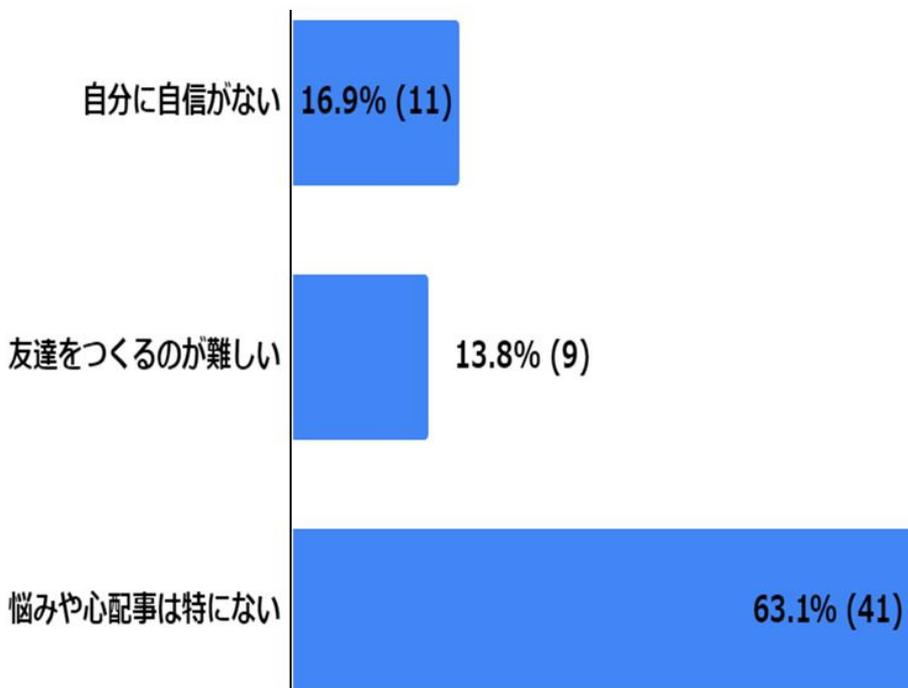


あなた自身について大変なことは何か②：中学生【男女別】 (複数回答)

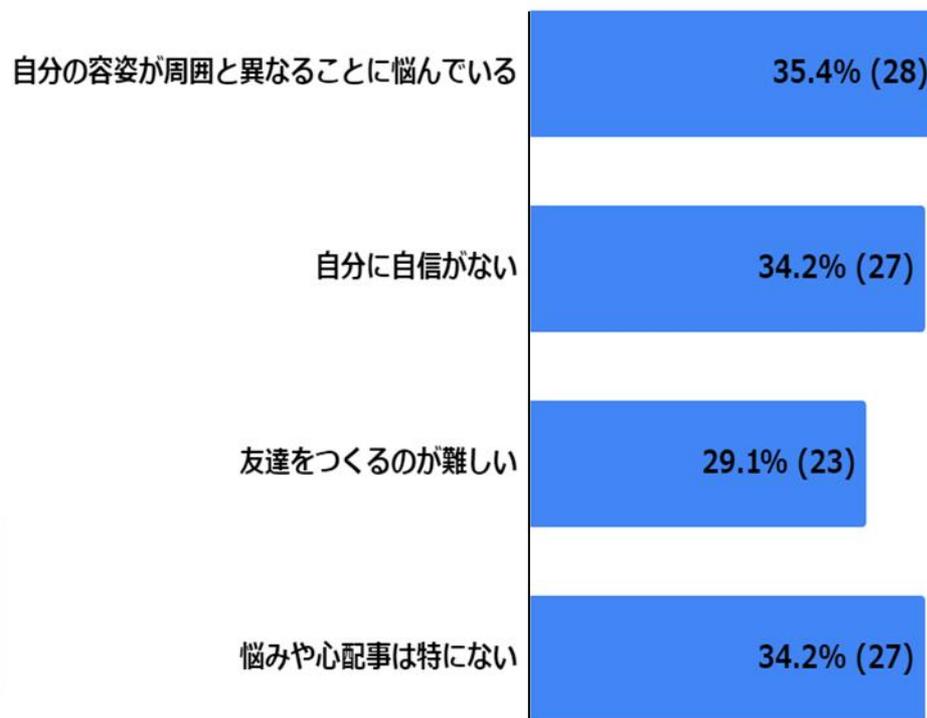
・男性では6割強が「なやみや心配事はとくにない」と回答しているのに対し、女性での「なやみや心配事はとくにない」との回答は3割強でしかなく、中学生では女性が男性に比べて著しく多く悩みを抱えている

・この調査では、約三割の中学生の女性が、まわりと異なる自分の容姿、自分に対する自信のなさ、友達を作ることの難しさについての悩みを抱えているという結果となった

〈男性〉 (n=65)



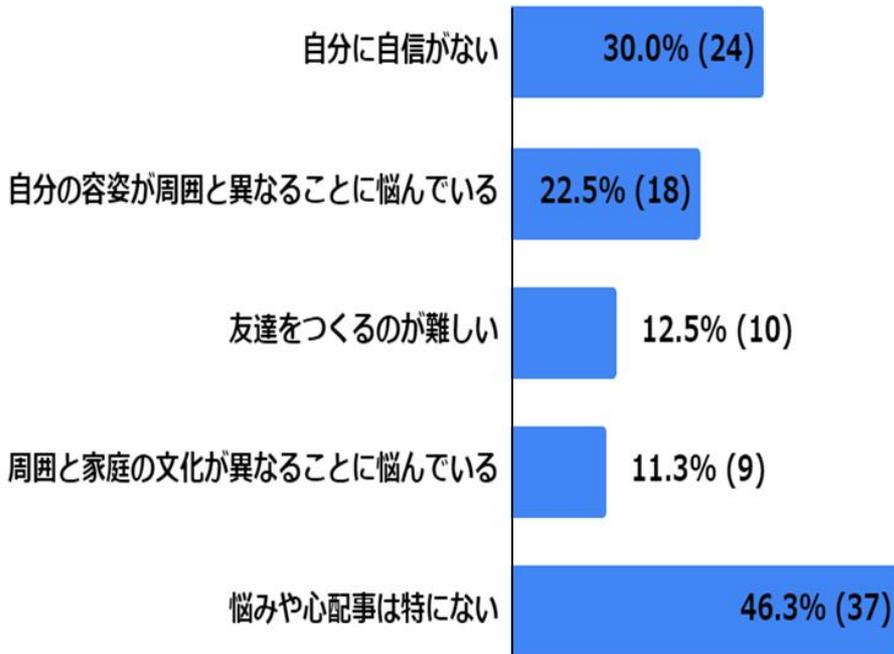
〈女性〉 (n=79)



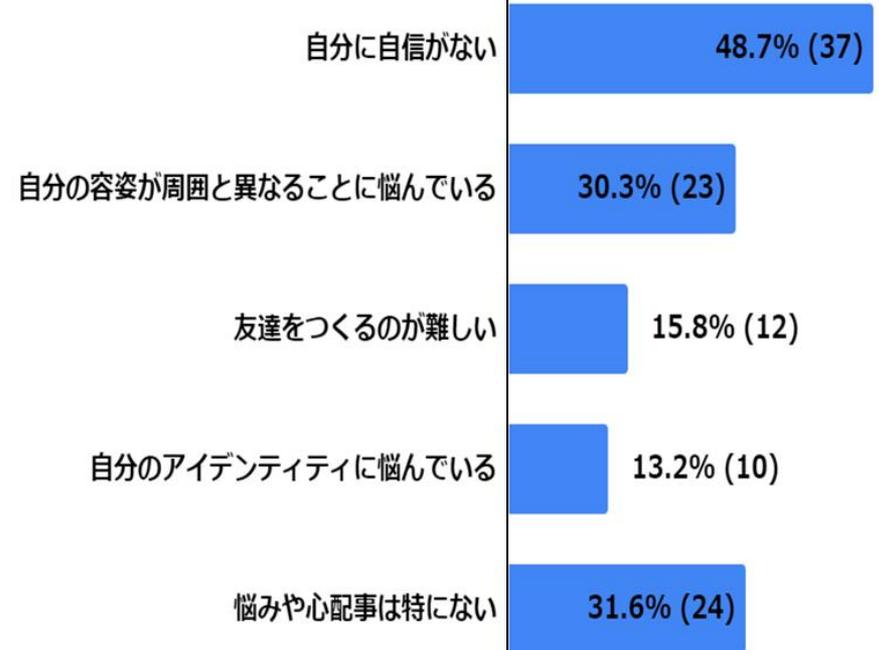
あなた自身について大変なことは何か③：高校生[男女別] (複数回答)

- ・「なやみや心配事はとくにない」との回答において男性「46.3%」、女性「31.6%」となり、中学生と同様、高校生でも女性が男性に比べて多くの悩みを抱えている
- ・男女とも「自分に自信がない」が最も多く、女性は半数近くが選択している
- ・「自分のみためが、まわりとちがうことになやんでいる」(女性：30.3%、男性：22.5%)では、男性の回答割合において、中学校(女性：35.4%、男性：6.2%)の結果と違いがみられる

〈男性〉 (n=80)



〈女性〉 (n=76)



■ 調査結果 - 2

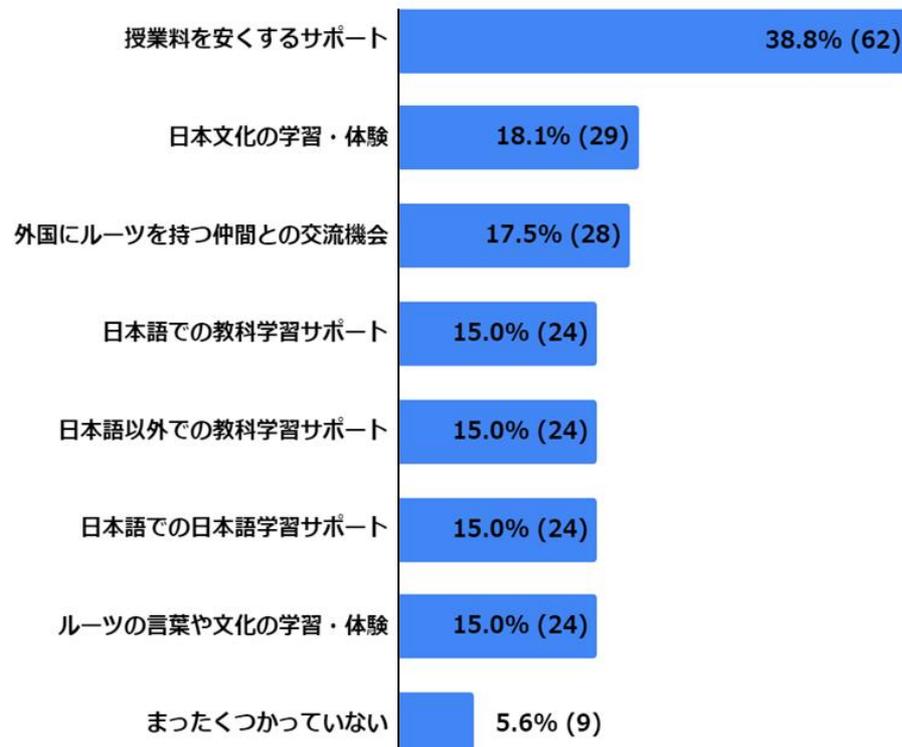
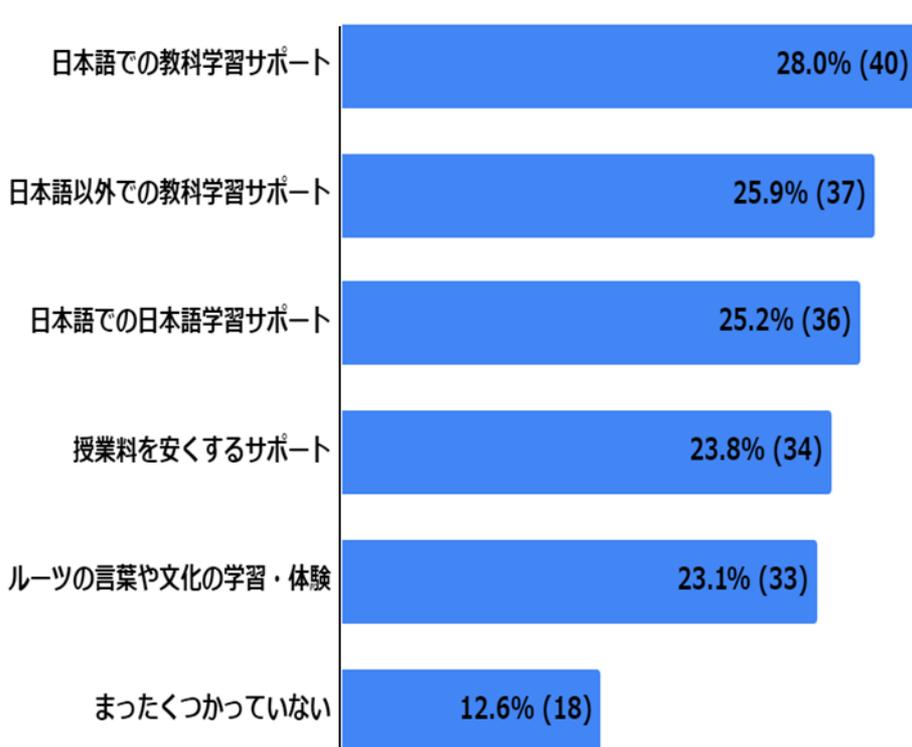
サポートについて

いま使っている学校や地域でのサポートは何か (複数回答)

- ・中学生：教科学習サポートと日本語学習サポートが上位を占めている
「日本語以外での日本語学習サポート」は、上位5位に入らず、16.8%にとどまっている
- ・高校生：「授業料を安くするサポート」(38.8%)と最も多い
教科学習や日本語学習に関するサポートは、中学生に比べて低い結果となった

〈中学生（上位5位）〉 (n=143)

〈高校生（上位5位）〉 (n=160)

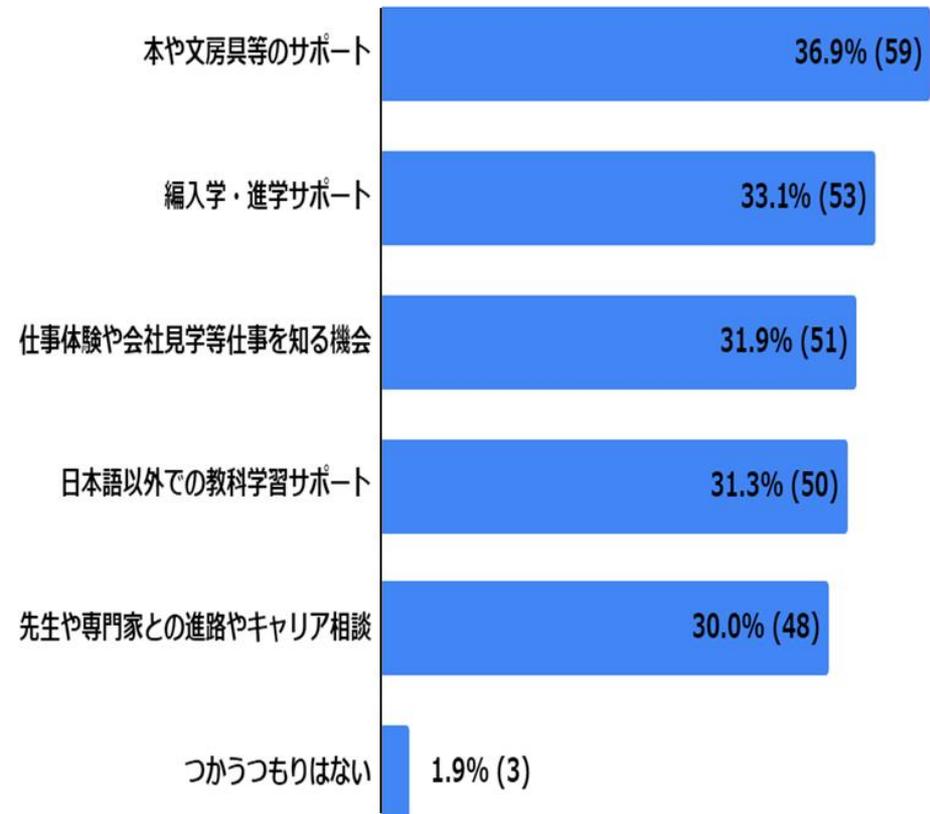
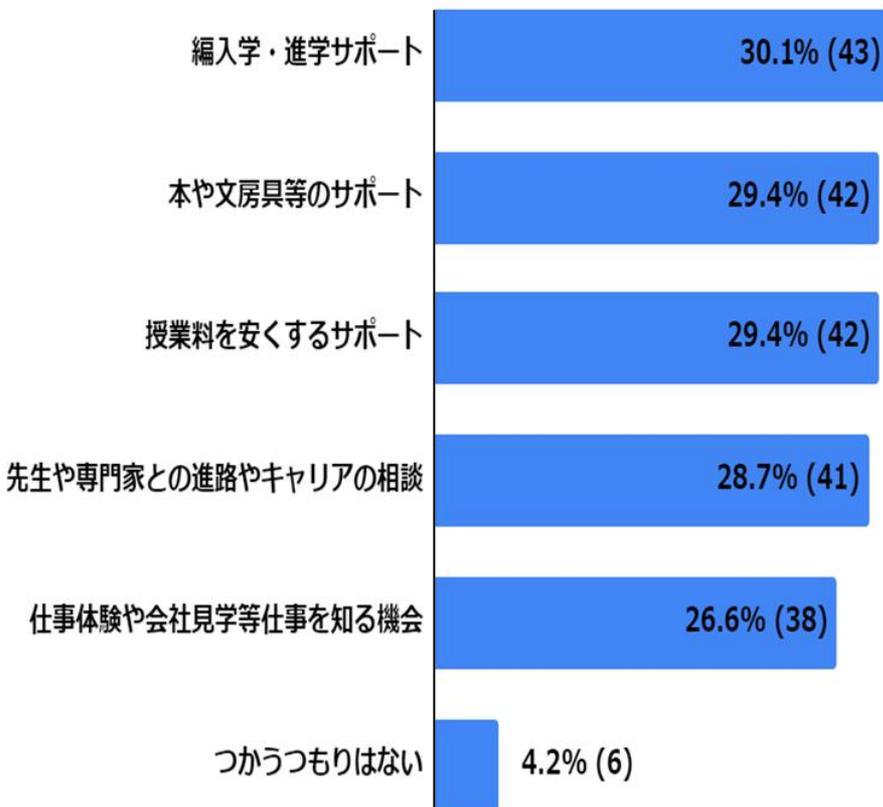


今後使いたい学校や地域でのサポートは何か (複数回答)

- ・中学生：学校に関する支援（授業料、文具）、キャリア支援や進学支援への関心が高いことがうかがえる
- ・高校生：高校生も同様の関心がみられる
「日本語以外での教科学習サポート」（31.3%）を全回答者の三割以上が選択している

〈中学生（上位5位）〉 (n=143)

〈高校生（上位5位）〉 (n=160)



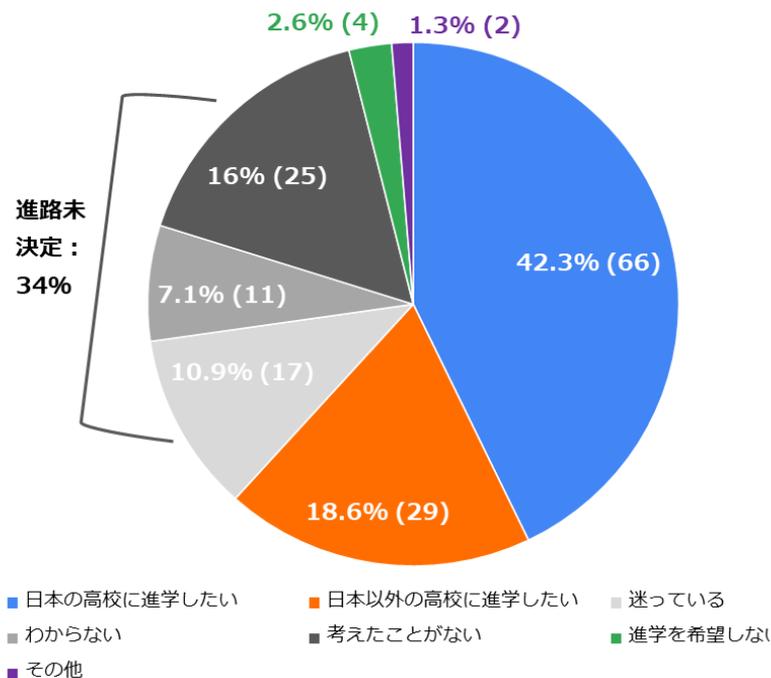
■ 調査結果－3

進学・進路について

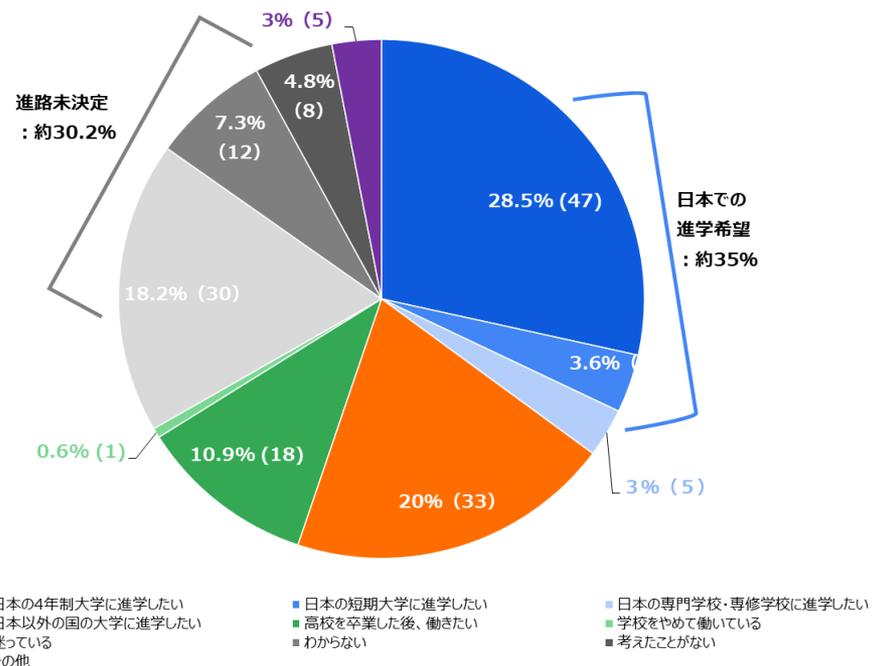
進学・進路をどう考えているのか① (単数回答)

- 中学生：「日本の高校に進学したい」(42.8%) が最も多い
「考えたことがない」(16%)、「迷っている」(10.9) など進路未決定の回答が3割を超えている
- 高校生：「日本の4年制大学に進学したい」(28.5%)、「日本以外の国の大学に進みたい」(20%) の順
「まよっている」(18.2%)、「わからない」(7.3%) など進路未決定の回答も30%を占めている

〈中学生〉 (n=154)



〈高校生〉 (n=165)

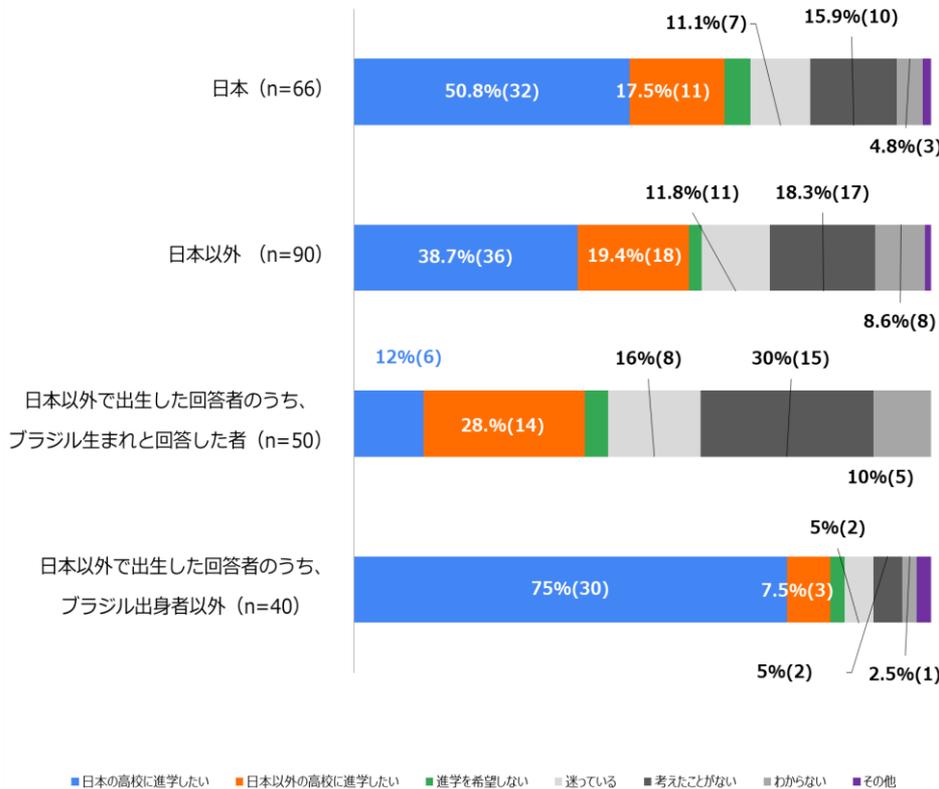


進学・進路をどう考えているのか②ー出生地別

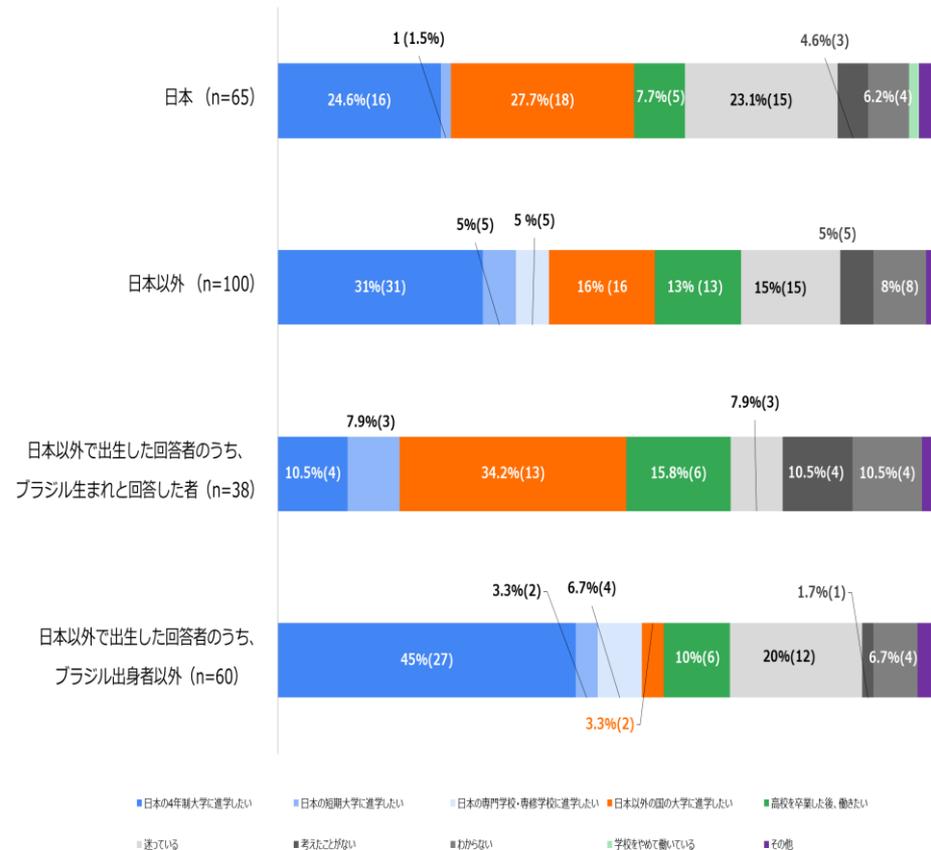
(単数回答)

- ・ブラジル生まれでは、中・高校生いずれも、日本以外の国での進学を希望する割合が最も高く、中学生では「考えたことがない」が3割に及ぶ
- ・日本生まれの高校生では、海外進学希望の割合が高くなるとともに、他と比べて進路未決定の割合が高い
- ・日本以外の生まれの高校生が、日本生まれに比べて、働くことを希望する割合がやや高い

〈中学生〉 (n=154)



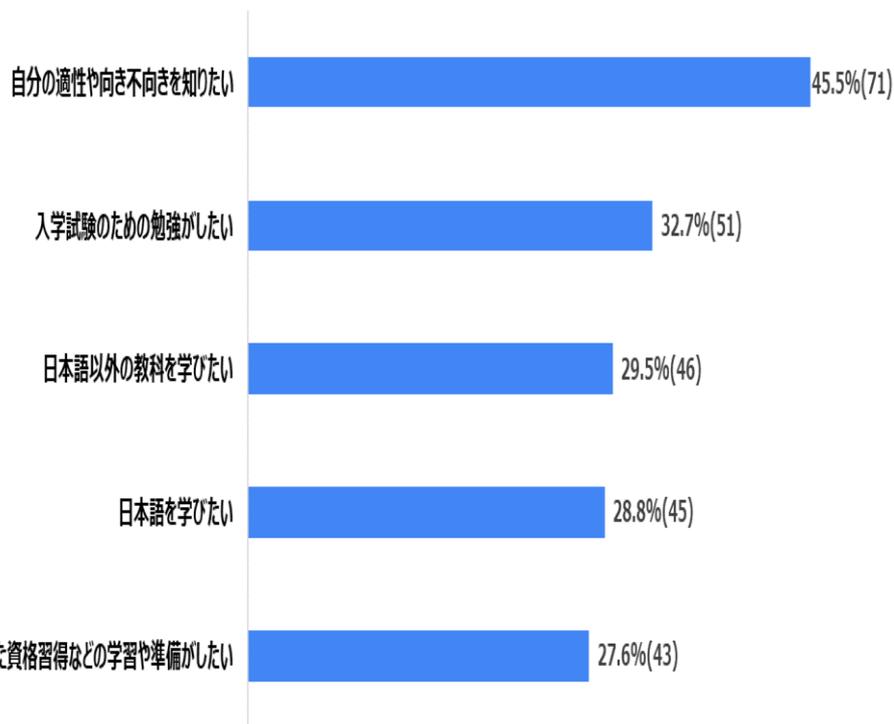
〈高校生〉 (n=165)



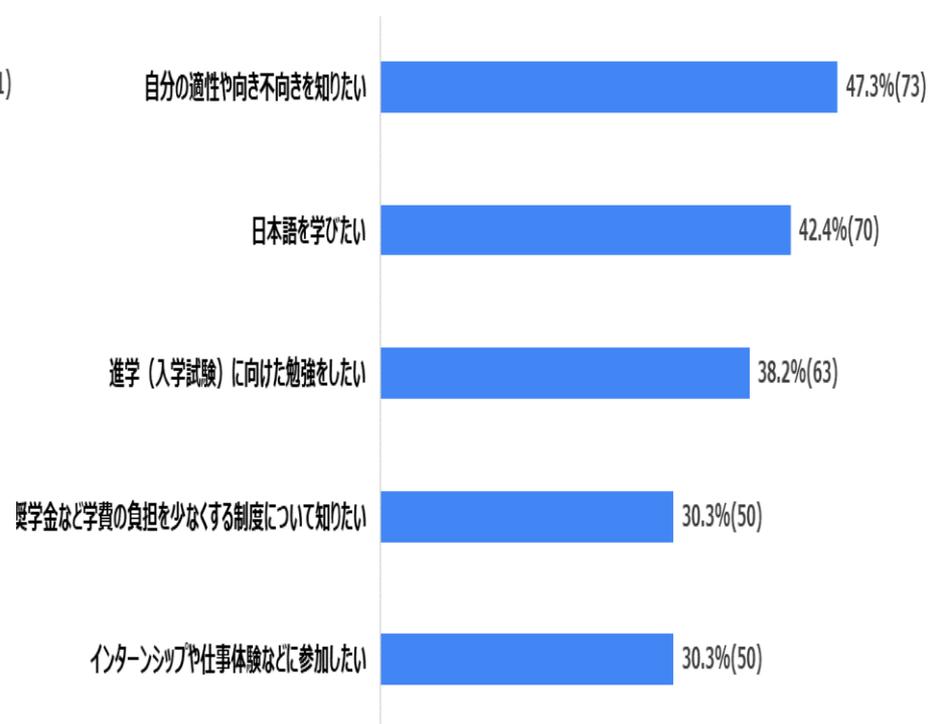
進学・進路を考えたときの疑問、悩みは何か① (複数回答)

- ・いずれも、「自分の適性や向き不向きを知りたい」(中学生：45.4%、高校生：47.3%) が最も多い
- ・回答した高校生の約4割が「日本語を学びたい」としており、中学生(28.8%) に比べて高く、進学・進路を考える上での日本語能力に対するニーズの高さがうかがえる

〈中学生：上位5つ〉 (n=156)



〈高校生：上位5つ〉 (n=165)



■ 調査結果－４

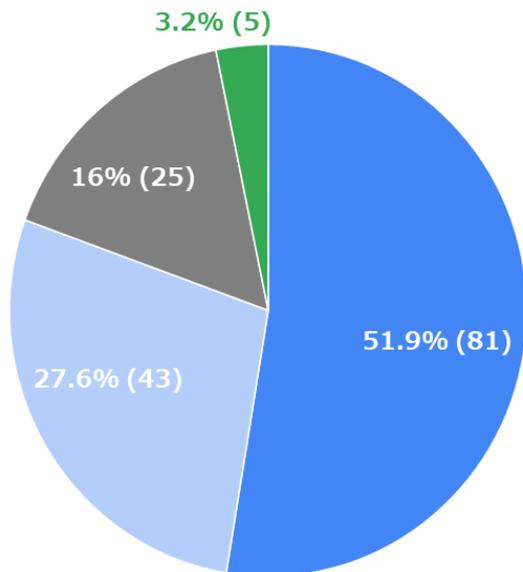
将来・キャリアについて

将来就きたい仕事やそのイメージはあるのか

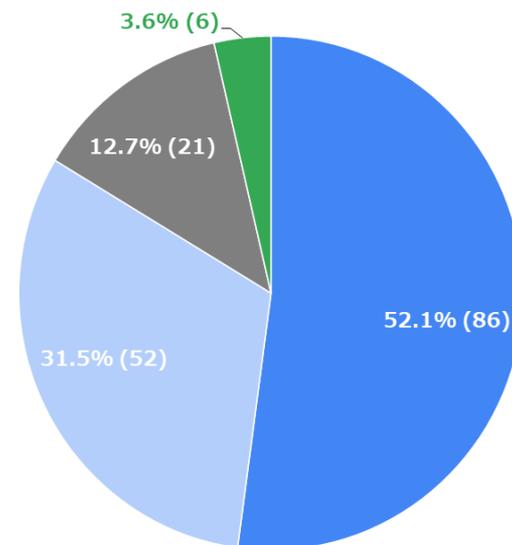
(単数回答)

・いずれも、「具体的につきたい職業がある」との回答が5割を超えている

〈中学生〉 (n=154)



〈高校生〉 (n=165)



■ 具体的につきたい職業がある

■ 具体的ではないが、働きたい業界や分野のイメージはある

■ 具体的につきたい職業がある

■ 具体的ではないが、働きたい業界や分野のイメージはある

■ つきたい職業や、具体的な業界や分野のイメージはない

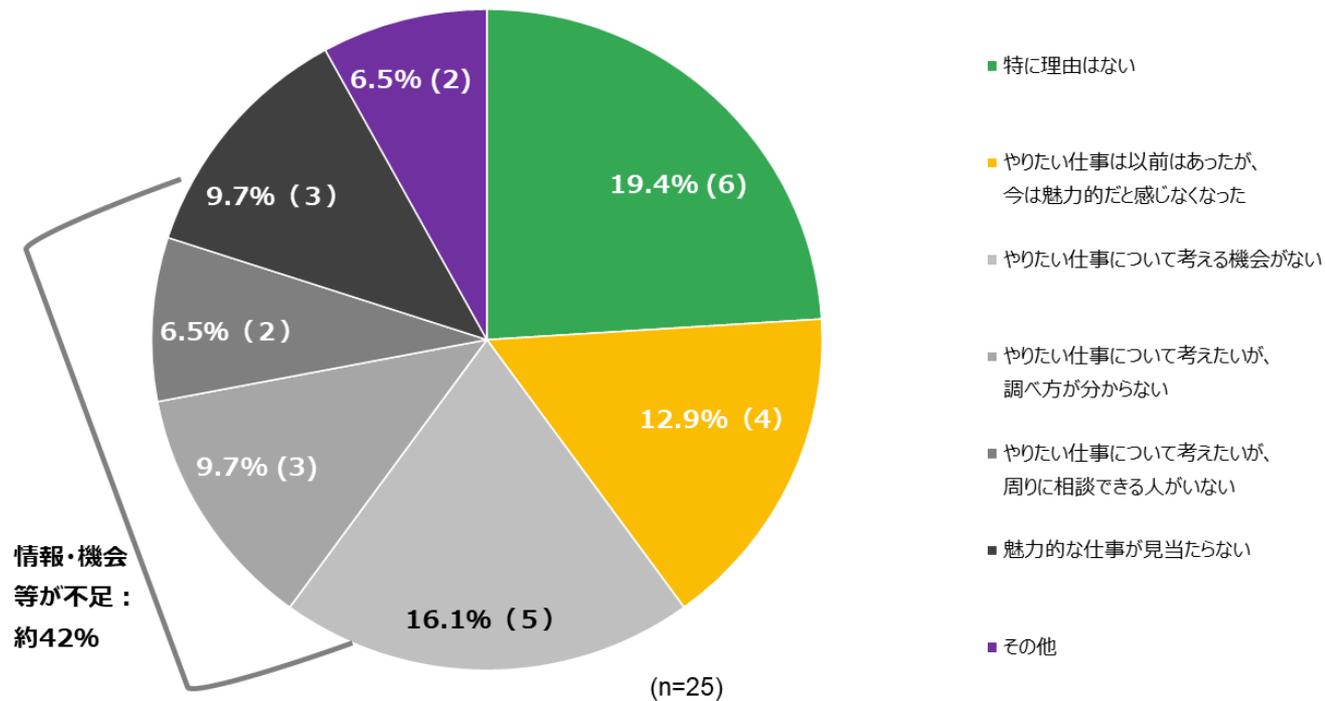
■ 働くイメージがない

■ つきたい職業や、具体的な業界や分野のイメージはない

■ 働くイメージがない

将来就きたい仕事がない理由は何か：高校生（単数回答）

- ・「特に理由はない」が最も多い
- ・「やりたい仕事について考える機会がない」（16.1%）など、仕事・キャリアにかかわる情報、機会などが不十分である様子が見える

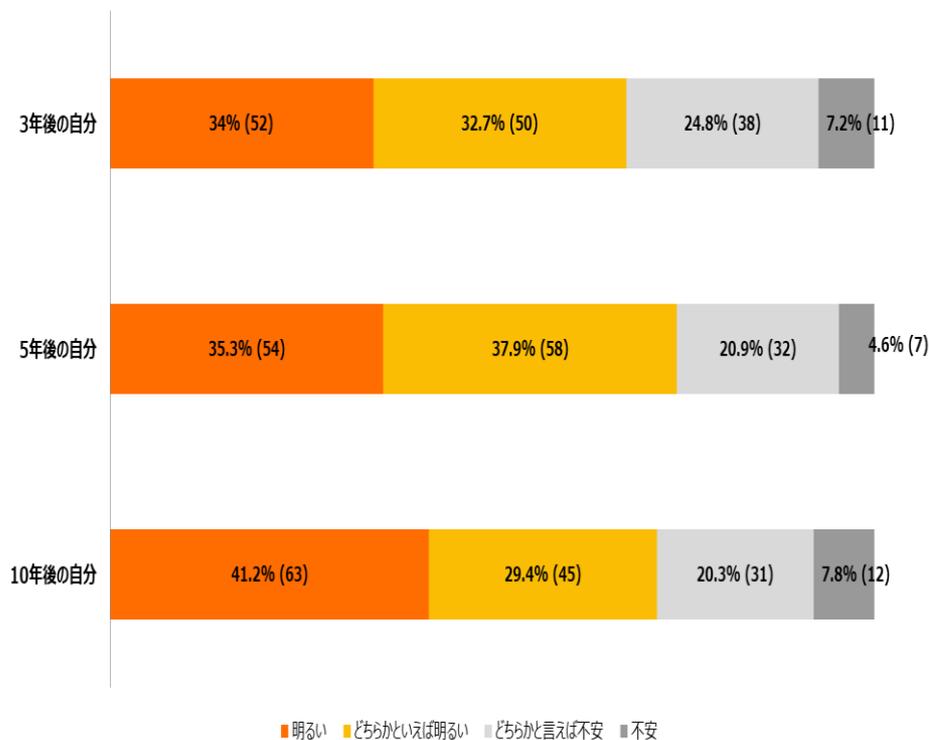


自分の将来をどう感じているのか

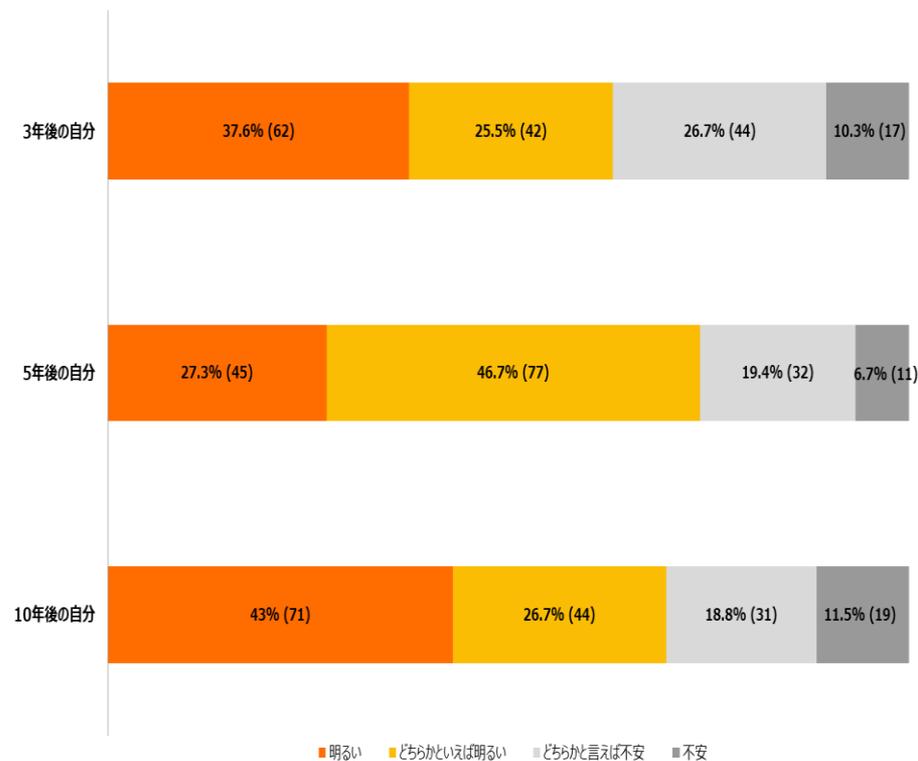
(単数回答)

- ・いずれも10年後の将来を「明るい」(中学生：41.2%、高校生：43%)と感じている割合が最も高い
- ・「どちらかといえば不安」、「不安」と回答した割合は、3年後の自分に対して最も高く、5年後、10年後では減少するものの、全体の3割弱を占める

〈中学生〉 (n=151)



〈高校生〉 (n=165)



■まとめ

これまでご紹介した結果から

▶ 在籍している学校種別に悩み・不安を抱えている様子の違いがみられる

- ・全体として、学業に関する悩みが最も多い
- ・一方で、公立学校では、65%以上が悩み・不安を抱えており、授業の理解や進学・進級への悩みがより多くみられた
- ・また、外国人学校では、20%以上の高校生に仕事関連情報や学習内容についての悩み・不安があった

▶ 性別による悩みを巡る状況が違いがみられる

- ・「自分に自身がない」と回答した割合が最も高く、自己肯定感にかかわる課題がみられた
- ・中学生、高校生いずれも、男性に比べて女性のほうが自分自身についての悩み・不安を抱えている傾向があった

▶ 現在の使っているサポートと今後使いたいサポートにはやや異なる傾向がみられる

- ・現在使っているサポートでは、教科学習や日本語学習のサポートが上位を占めている
- ・今後使いたいサポートでは勉強に必要な本・文具のサポートや進学・キャリア支援のサポートが上位を占めており、中学生では、「授業料を安くするサポート」が30%を占めている

▶ 出生地により進学・進路希望に違いが見られる

- ・中学生、高校生いずれも、進路未決定状況の回答が約3割を占めている
- ・ブラジル生まれでは、日本での進学を希望する割合が最も低い
- ・日本生まれでは、高校生において海外進学希望の割合が中学生に比べて高く、他と比べて進路未決定の割合も高い

▶ 就きたい仕事やそのイメージ、将来についての展望は必ずしも不安な状況ではない

- ・中学生、高校生いずれも、50%以上が具体的に就きたい仕事があると回答している
- ・中学生、高校生いずれも、70%近くが3年後、5年後、10年後の将来を肯定的に感じている